

本堂

三宝院内の建物である本堂には、いくつかの像があります。

主なものは、弥勒菩薩です。弥勒菩薩は、将来完全な悟りに到達し、人類を救うために再び地上に現れると信じられている菩薩です。この像は1192年に鎌倉時代（1185-1333）の仏像の彫刻家である快慶（1183～13世紀初頭に活動）によって作られました。木で作られており、金箔張りです。

弥勒菩薩像の左にあるのは、修行僧であり醍醐寺の創始者である聖宝（832～909、死後は理源大師として知られる）の木造の像です。右側には、空海（774-835、死後は弘法大師として知られる）の像があります。空海は真言宗の開祖で、醍醐寺は真言宗の総本山です。像は木製で、1667年に塗装されました。

本堂の後ろには、護摩火の儀式に使用される護摩堂があります。信者は、苦しみの根源である信者の欲望を、火が破壊すると信じています。

本堂は重要文化財に指定されています。